

農を活かしたまちづくり

～農業からの地域活性化、未来ある元気な農業を目指して～



津別町の農業は、畑作を中心とし、酪農・畜産を含めた土地利用型農業が進められています。農業は、林業・林産業と並ぶ町の基幹産業として位置付けられ、約5,800ヘクタールの耕地面積において生産量の向上を目指し、基盤整備や施設整備等を進め食料自給率の維持向上を図ってきました。

一方、農家数は農業従事者の高齢化や後継者不足の進行で減少している現状にあり、引き続き、町の基幹産業として地域の農地を維持していくため、生産体制の再編成や農地の効率利用に関する環境整備が必要となっています。

アンケートから見える 津別農業の現状

本年、農業者を対象に、集落・地域が抱える人と農地の問題について、アンケート調査を実施しました。

調査の結果、今後10年間に地域内の人・農地に問題が生じると感じている経営体が45%で、特に若年農業者の減少と高齢化の進行が課題との回答が多く得られました。

また、地域を持続可能なものとするために何らかの対策が必要と考えられている経営体が70%で、地域維持の方策として農業生産法人や集落営農などの取り組みが必要との回答です。

次に、後継者の確保状況については、後継者のめどがついていない経営体が約57%と半数を超えており、将来に向け青年就農者の確保対策が必要との回答が68%となっています。

これらの調査結果から、引き続き農家戸数の減少が続くと考えれば、少ない農家戸数で地域全体の農地を維持できるような農業生産体制を図っていく必要があります。あり、地域の農業構造・農業展開の方向を明確にし、地域全体で取り組んでいかなければなりません。



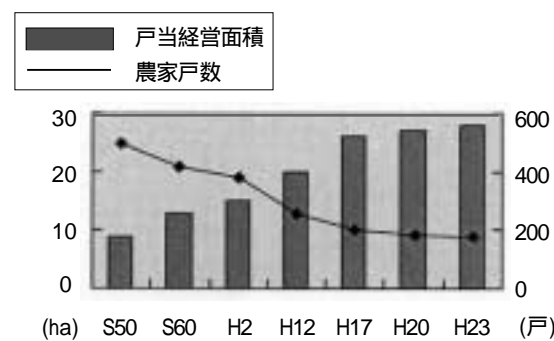
農家戸数の減少と 規模拡大

離農や高齢化により農家戸数の減少は予想以上に進んできました。このため、少なくなった農家戸数で地域全体の農地を継承していくこととなり、経営規模が拡大しています。

農家戸数では平成22年の382戸に対し平成22年181戸と47%までの減少となり、一方、戸当り経営面積は平成22年の14・5ヘクタールに対し平成22年では29ヘクタールと2倍の増加となっています。

このことから、労働力の確保や労働時間の軽減、農業機械の大型化による導入費用の経済負担など規模拡大に伴う課題もあります。

<津別町の農家戸数と 1戸当たり経営面積の移り変わり>



未来ある津別農業を

津別町も近隣の市町村と同様に、農業従事者の高齢化や後継者不足が課題となっていますが、これら課題を克服しようと頑張っている各種団体があります。

町内外での研修や農業者・関係団体との交流など、多くの情報交換を行い、未来ある津別農業へと活動しています。

J A つべつ「フレッシュ・ミズ」

代表 安部ちなみさん

「フレッシュ・ミズ」は、農家のお嫁さんで構成する団体です。

私たちの活動は、同じ農家のお嫁さんとしての情報交換や農協、役場のイベントへの協力、研修旅行などです。皆で協力し、楽しく活動を行っています。

私は町外からお嫁に来て、知り合いも少なかった時に、同じ農家のお嫁さんという立場で色々な話が出来たようになったことは、大変良かったです。

農業は、天候に左右される仕事です。良すぎても、悪すぎてもダメです。都会ではお祭りや花火大会などで季節を感じますが、私は種まきや

麦刈り等で季節を感じます。農村地帯ならではの素晴らしいことだと思います。

これから農業を続けていくのに色々な問題があると思いますが、次世代に安心してバトンタッチできるように頑張っていきたいと思っています。



美幌地区農業士会 津別支部 支部長 小野寺慶典さん

美幌地区農業士会は、美幌町・大空町・津別町の指導農業士・農業士ら50名の会員で組織されています。会員は、畑作・酪農など専業農業者に加え、畑作と肉牛の複合農業者など、様々な農業者となっています。

私は、その中で「指導農業士・農業士」という肩書にプレッシャーを感じながらも、色々な情報交換・交流が出来ていることが大変良かったと感じています。

J A つべつ青年部

部長 竹原宏太郎さん



今、農業に必要なことは、めまぐるしく変化していく農業情勢とにかく乗り遅れないことだと思います。そのためには、今までの農業に固執することなく、柔軟に対応していくことが大切だと思います。

これからは、農業士会が情報の発信基地となるよう、3町の会員や関係機関と連携し、時代に取り残されることの無いよう毎日、農業者として努力し、頑張っていきたいと思っています。

J A つべつ青年部は40名の部員で他の市町村農業者との情報交換・交流、町内外のイベント等の協力活動を実施しています。

部長として活動を行う中で、多くの人との出会いや交流が出来ることが良かったと思います。しかし、人

との付き合い方やリーダーシップの取り方など、まだ勉強しなければならぬことは多くあります。

これからは、今まで以上に町や農協、そして農業者とのつながりを強め、農業の活性化を図り、津別町自体のブランド力をつけることが必要と考えます。そのためには農業者の大切さや楽しさを、多くの人々に知ってもらいたいと思います。また、農業に関わったことの無い人でも農業をやってみたいと思えるよう、津別農業をPRし、生産だけではなく、加工・販売などを行い、津別町から発信する農業を考えて行く必要があると思っています。

これからも私たち若手農業者は、地域での行動・活動を行っていききたいと思っています。そのためには、周りの市町村からうらやましがられる「やる気」「モチベーション」を維持し、津別町の農業活性化のために努力していきたいと思っています。

